

Medical Excellence JAPAN 理事長

近藤 達也

こんどう・たつや 東大医卒、国立国際医療センター病院院長などを経て、08年医薬品医療機器総合機構(PMDA)理事長。「レギュラトリーサイエンス」(規制科学)を推進し、わが国の医療改革に貢献。19年から現職。77歳。



患者視点の合理的医療を追求

世界に「MEDICAL EXCELLENCE」浸透 後押し

「医療」は医学を中心に、さまざまな学問や文化の支えにより総合的に進化・発展してきたものと考えられる。その医療が倫理に基づくことは、ヒポクラテスの時代にさかのぼるまでもなく疑う余地はない。繰り返すが今日の医療は倫理学、医学、薬学、工学、生物学、獣医師学、化学、物理学、数学、法学、経済学など多くの学問による発展の支えにより、総合的に発展してきたのである。あらためて冒頭の倫理学は最も重要な視点。「患者のための医療」ということを意味している。

医療は患者を軸に、周産期から人生の最終段階まで、最新の科学的な知見を踏まえ全人的な医療を提供する体制を構築する必要がある。個々の患者に合わせた合理的なものでなければならぬ。医療は先端医療を選択したとしても、寄せ鍋や關夜汁のような寄せ集めのものであってはいけない。

個々の患者の状態を総合的に正確に把握して、さまざまな治療法の選択、その組み合わせ、タイミング、期間、年齢、性別、状態などを考慮して最善の判断を実施する。そのための医療は、レギュラトリーサイエンスの手法による診断ならびに治療が求められる。それは患者を正しく総合的に診断し(評価科学)、それに対して最適な治療法を選択する(適正規制科学)ことである。

講壇

現実には内科、外科、脳神経外科、眼科といった分野も細分化されている。例えば脳神経外科でも脳腫瘍、脳血管障害、脊髄疾患、神経外傷、機能神経科など専門領域は分化し、さらに血管内治療専門家が育つようになってきている。これは、専門性の高度化として高く評価していかねばならないが、一方細分化した揚げ句、患者に対する視線も狭まり、患者を全体から診ていかねばならぬ視界を時に見失うことになる。このような専門医には、医師としての総合的な医療の原点を忘れぬことを願うばかりである。

医療のイノベーションは、患者視点での他の領域の専門との交流により生まれてくるものが多い。常に合理的な医療を求め心が大事な要素になっている。この卓越した医療を Medical Excellence は今後海外の国でも、第2、第3の「MEDICAL EXCELLENCE」が生まれ活動することを念頭に、それぞれの国情に沿った形で合理的に支援する方向である。合理的医療は絶対的なものではない。それぞれの国や地方や民族の文化、経済状態などの特性により異なっており、相対的なものでしてそれを尊重しながら協力していくことが大切と考え、「MEDICAL EXCELLENCE」などが方針に合わせるようにして「ウィンウィン」の形で必ず成果を上げることが必要と考え

(今回は早稲田大学政治経済学術院副学術院長の深川由起子氏です)



前回、日本は既に1億2000万人の国民が皆保険の下で、世界最先端の医療サービスを提供している国家であると述べた。これはわが国民が長年にわたって培ってきたものである。国民が胸を張る資格がある。

日本は少子化とともに、労働力の中核を占める生産年齢人口の減少が予想される。こうした中、理工系の大学は、そんな人材を育成していくべきなのか。理論のみならず高度な技能・技術も併せ持つ「テクノロジスト」の育成が急務だと考える。道員使いこなす

テクノロジスト育成急務

ものづくり大学学長 赤松 明



主張

い。人間がどのように道具を使いこなすかにかかっている。新技術を取り入れて進化している新しいモノづくりに対応するためにも、理論武装した

理論と技能両立リーダーに

上で実践できるテクノロジストの育成が求められている。ものづくり大学は2001年の開学以来、「知行合一」の考えの下、座学4割、実習6割の比率で学生に教育を施している。教育では実践的な事例を重視している。カリキュラムで最も特徴あるのが年次に行うインターンシップ(就業体験)だ。1年を4学期に分割したクォーター制を採用し、2年生の2学期に40日間のインターンシップを取り入れている。

このほか、多くの理工系大学が参加する学生フオーミュラ日本大会にも参加。知識と技能を両立させる場として、本学の学生は車両の約90%を内製化している。緩衝器(ショックアブソーバー)なども自ら設計して加工・組み立てており、エンジンとパネ、タイヤ以外は全て学生が製造している。

これらの狙いは座学で兼ね備えたテクノロジストの育成を求めたい。

あかまつ・あきら 74年(昭49)職業訓練大学校卒、同年同校助手。95年金沢大非常勤講師、06年ものづくり大教授、11年学部長、13年学部長、16年学長。農学博士。大阪府出身、69歳。

論説室から

英語の事業コンテスト

スタートアップ海外展開に一役

モノづくり日本会議実行委員長 藤元 正

「日本のスタートアップも世界で十分戦えるのでは。そう実感したのは2017年3月に米サンフランシスコで開催された「第1回スタートアップワールドカップ決勝大会」のこと。乳幼児や保育施設向けの見守り・ヘルスケアサービスを手がけるユニファ(名古屋市中区)が優勝する場に立ち会い、認識がらりと変わった。世界各地の予選を勝ち抜いたユニファが一堂に会し、ビジネスモデルを競い合うプレゼンイベントが盛んだ。そこには世界中から良い「玉」を発掘し育成しよう、との主催者側の狙いがある。欧州でもルクセンブルクの「ICTスプリングヨーロッパ」で音声解析AIのEmpath(東京都渋谷区)が18年に優勝するなど、2年連続で日本企業が実績を残している。

実は私のいるモノづくり日本会議も「モノづくりハードウェアアカデミー」の協賛を名を連ねる。ハードウェアに絞った英語での事業コンテストで、2月13日に京都市で第4回日本予選が開かれる。優勝者は賞金のほか、米ビジネスバウリングで5月開催予定の決勝大会に登壇する権利も得られる。「日本のハードウェア企業が海外展開するための足がかりを作りたい」というのが英語でのコンテストを始めた理由。決勝まで進めば米国の投資家や事業会社とネットワークづくりや情報収集もできる。日本予選を主催するモノづくり起業推進協議会の牧野成将会長は、利点をこう話す。

「日本のスタートアップも世界で十分戦えるのでは。そう実感したのは2017年3月に米サンフランシスコで開催された「第1回スタートアップワールドカップ決勝大会」のこと。乳幼児や保育施設向けの見守り・ヘルスケアサービスを手がけるユニファ(名古屋市中区)が優勝する場に立ち会い、認識がらりと変わった。世界各地の予選を勝ち抜いたユニファが一堂に会し、ビジネスモデルを競い合うプレゼンイベントが盛んだ。そこには世界中から良い「玉」を発掘し育成しよう、との主催者側の狙いがある。欧州でもルクセンブルクの「ICTスプリングヨーロッパ」で音声解析AIのEmpath(東京都渋谷区)が18年に優勝するなど、2年連続で日本企業が実績を残している。

Advertisement for 'Tool Grinding Basics' and 'Drill Selection' educational software. Includes book covers, QR codes, and a contact form for ordering.

Order form for educational software. Fields include title, quantity, price, company name, department, applicant name, and address. Contact info: TEL 03-3666-9800, FAX 03-3666-9800.